

平成 27 年 7 月 10 日  
教頭

平成 27 年度 大阪府立三島高等学校 第 1 回 学校協議会 議事録

- 1 実施日 平成 27 年 6 月 27 日(土)
  
- 2 出席者
  - (1) 協議会委員 (アイウエオ順)
    - 柏原 泰和 (川西地区青少年健全育成協議会会長)
    - 芝井 敬司 (関西大学教授) 協議会会長
    - 高島 敏彦 (高槻市立郡家小学校校長)
    - 北堂 薫 (高槻市立第二中学校長)
    - 宮坂 政宏 (週刊教育 Pro 主幹) 協議会副会長
    - 武藤 和子 (三島高等学校 PTA 会長)
  - (2) 校長
  - (3) 事務局
    - 山崎 一郎 教頭、藤岡 通夫 事務長、金田 修治 首席、(尾崎 聡 首席は欠席)
  
- 3 議題
  - (1) 平成 27 年度の学校経営について
  - (2) 入学者選抜について
  - (3) 大学入学者選抜制度改革について
  - (4) その他
  
- 4 委員からの指摘提言
  - (1) 平成 27 年度の学校経営について
    - ・進路目標など、目標を早く持てばいい結果が期待できる。とくに初期(第 1 学年はじめ)の学習習慣づけが重要であるが、しっかりできているか。
    - ・私立と公立間で、授業内容は大差がないが、ボリュームで大きな差がある。私立では家庭学習を課し、授業で確認させる。最低でも(0 時間目、7 時間目を入れて)8 時間授業をしており、土曜日にも授業がある。
    - ・私立の小学校ではアクティブラーニングが進んでいて子どもに実践力がある。力のある教員どんな子どもにも力をつけることができる。
    - ・高校教員の変化が求められる。教員に対する研修が必用。講義(注入)型、アクティブラーニングの組み合わせをうまく配置した授業が大切。

(2) 入学者選抜について

- ・中学校でも自己申告書の指導を始めており、すべての生徒に対して指導を行っている。
- ・アドミッションポリシーは中学生に具体的な目標を与えることになる。制度に対する信頼性を確保するためにも、高校は10人、20人とできるだけ適用して合格者を出して欲しい。
- ・8月に発表される全国学力テストの結果に注目している。今回はかなり勉強させたので期待が大きい。

(3) 大学入学者選抜制度改革について

- ・入試制度改革への対応が大きな課題で、高校(三島高校)はどういう入試対応をしているのか明示化していかななくてはいけない。
- ・関西大学では7万人の受験生がいるので、入試では文科省でいう「主体性」、「多様性」、「協働性」すべてを検証するのは事実上困難である。どのような対応ができるか苦慮している。
- ・三島高校はディベートやプレゼンテーション能力向上のための実践教育をどのように取り組むのか。

(4) その他

- ・雨天時での自転車の合羽着用が増えていることは良いことだ、一方で自転車並走などについてはあまり変化が見られないのは残念だ。しっかり指導して欲しい